

ISSP ワークショップ

ISSP Women's Week 2024 研究交流会

[期 間] 2024 年 12 月 3 日(火)～2024 年 12 月 4 日(水)

[提案者]

実行委員：中島多朗(代表)、井手上敏也、川畑幸平、長谷川幸雄、松田巖、宮田敦彦、山浦淳一

学生実行委員：白井亜美、渡我部りさ、渡辺 凌真、原 正彦、山岡良太

(所属は全員が東京大学物性研究所)

[主 催] 東京大学物性研究所

[協 賛] 日本学術振興会 学術変革領域研究(A)「1000 テスラ超強磁場による化学的カタストロフィー：非摂動磁場による化学結合の科学」

[ご支援] 本年度の企画はキオクシアホールディングス㈱の理系女性活躍推進活動にご支援いただきました。

物性研究所では、理工系の研究分野で現在少数である女性研究者のより一層の活躍及び割合増加をサポートするため、2021 年度より ISSP Women's week というイベントを開催してきました。今年度も 11 月末から 12 月上旬の期間を ISSP Women's week 2024 とし、その期間内の 2 日間で「研究交流会」を開催しました。この研究交流会は毎年工夫を凝らして開催されており、昨年度からは女性だけではなく男性の講演者も登壇し、広い視点から男女共同参画について議論が交わされました。これを踏まえて、今年度の研究交流会を開催する上で何を重点とするかについて年度はじめに実行委員会で議論したところ、「男性の講演者に登壇してもらうことを継続すること」「ダイバーシティの観点から外国籍の講演者を入れること」「学生が主体性を持って参加してくれるような企画をつくること」が挙がりました。これを踏まえて作成されたのが下記に示された今年度のプログラムです。8 名の招待講演者の皆様には、ご自身の研究テーマ、これまでのご自身の経験、男女共同参画・ダイバーシティ推進などにおける各大学・研究機関での取り組みなどをご紹介頂き、どの講演も非常に興味深く、質疑応答も含めて大変盛り上がりしました。

また、今年度のプログラムの目玉は「学生主催パネルディスカッション」でした。この企画のために、物性研内の大学院生 5 人が学生実行委員として参加してくれました。この 5 人と実行委員長の中島で事前に 2 回の学生実行委員会を開き、1 日目の後半の企画を考えました。当初実行委員長の私からは学生が登壇し自身の研究や男女共同参画に関わる要望などを話すような(無難な?)フォーマットを一例として提案しましたが、学生実行委員の皆さんは非常に意欲的で、招待講演者の先生方に直接質問をぶつけるパネルディスカッションや、テーマ毎に分かれたポスターボードの前に集まって直接対話する形式のディスカッションがしたいという意見が出され、実際にそのようなディスカッション中心の企画となりました。また、パネルディスカッ

ションのテーマは一般から広く募集したいという意見が出て、質問を投稿するための Web フォームも作成し、柏キャンパスのカフェテリアにもポスターを出すなどしました。当日も 5 人の学生実行委員が順にマイクを持ってパネルディスカッションを仕切り、自らテーマを提示してパネラーになってくださった招待講演者の先生方と白熱した議論を繰り広げていました。その姿は聴衆として参加した他の学生たちにとっても刺激になったことと思います。

また、ISSP Women's week はこの 2 日間の研究交流会だけでなく、それに近い日程で開催された部門・施設セミナーなど物性研主催・共催のイベントに女性講師を積極的に招待する期間にもなっています。今年度も各部門・施設等にご協力いただき、下記に示すような多くの女性講師セミナーが開催されました。本来男女共同参画やダイバーシティという言葉は女性だけを指すものではなく、組織を構成する全員が意識すべきものですが、現時点では日本の物性研究コミュニティではまだまだ女性が少数であることから、このような期間を設けてコミュニティ全体としてこの問題を意識して改善に向けて取り組んでいく機会としていければと思います。

最後になりましたが、研究交流会や Women's week 全体を支えてくださった多くのスタッフの皆様、そしてご支援いただいたキオクシアホールディングス㈱と日本学術振興会 学術変革領域研究(A)「1000 テスラ超強磁場による化学的カタストロフィー：非摂動磁場による化学結合の科学」に深く感謝申し上げます。このイベントの準備のため、年度はじめから 3 回の実行委員会を開催してきましたが、そのすべてについて、所員は自由に参加聴講可能としました。実行委員ではないにもかかわらず参加してくださった先生方、特に複数回にわたって参加して重要なお意見を頂きました林久美子先生と高木里奈先生にもこの場を借りてお礼申し上げます。

